令和7年3月4日
富山県高岡農林振興センター

もも栽培情報第１号

１　生育状況等

県果樹研究センターの発表（２月 26 日）では、「あかつき」の開花始めは４月 10～11 日で、前年より３日程度遅く、平年より１日程度遅いと予想されています。気象庁によると、２月 27 日時点の**この先１か月の北陸地方の気温は高い確率が 50%と見込まれており、今後の天候次第では生育が早まる可能性があります。**せん定や防除等作業は遅れないようにしましょう。

２　病害虫防除

＜薬剤防除＞

時　期	散布薬剤名	対象病害虫	希釈倍数	散布量（10a 当）	100 ﾘｯﾄﾙ当必要量	散布実施日
３月上旬頃（休眠期）	**石 灰 硫 黄 合 剤**	縮葉病、胴枯病、黒星病、カイガラムシ類	7倍	300ﾘｯﾄﾙ	14ﾘｯﾄﾙ	

※カイガラムシ類の発生が目立つ場合は、機械油乳剤 95（20 倍）を発芽前に散布する。ただし、石灰硫黄合剤との混用は避け、散布間隔は２週間以上開ける。また、樹勢が弱っている場合は薬害を生じるおそれがあるので散布しない。
※薬剤は、散布ムラがないように丁寧に、十分量を散布する。
※園外への飛散や他作物への飛散が無いように十分注意して散布する。
※農薬の使用前には必ずラベルを確認する。

＜耕種的防除＞

（１）せん孔細菌病

発生源となる**春型枝病斑（芽･枝枯れ含む）**（写真１・２）は**切除**し、園外に持ち出し適正に処分してください。

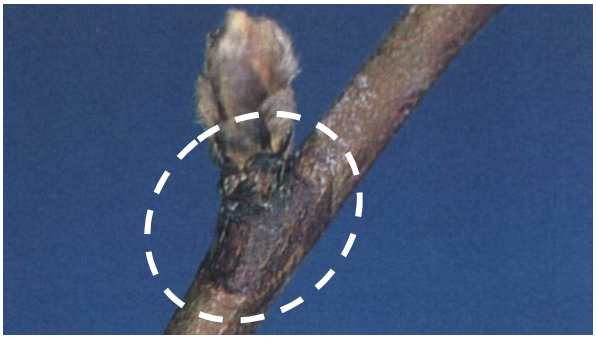

写真１　せん孔細菌病春型枝病斑

写真２　枯れ枝（芽が動いていない）

（２）カイガラムシ類（写真３・４）

カイガラムシ類の寄生が多い場合は、機械油乳剤 95 散布前に枝幹の越冬虫をワイヤーブラシ等で削り取り、越冬密度を減らしてください。

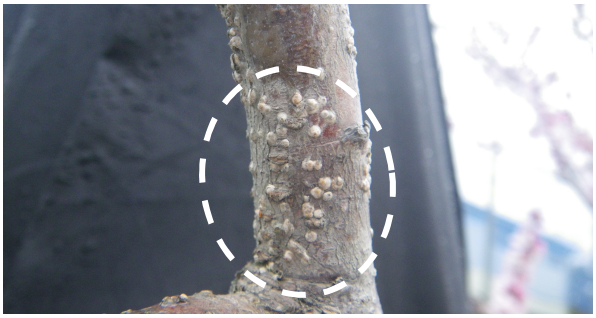

写真３　ウメシロカイガラムシ

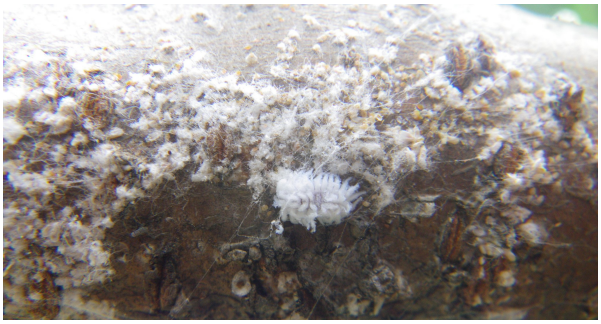

写真４　フジコナカイガラムシ

３　せん定について（写真５）

せん定は、３月の防除前に終わらせるよう努めてください。

主枝や亜主枝の生育を妨げるような、強大化した側枝を優先的にせん除してください。

結果枝は、中・長果枝を中心に配置し、また、摘蕾・摘果作業の省力化のため、５cm 以下の短果枝数は、せん定後に１／３程度の数になるようせん除してください。

切り口には保護殺菌剤（トップジンMペースト等）を塗布して保護してください。

写真５　せん定後の枝の状態

４　摘蕾について

実施時期：花芽がやや膨らみ、先端のピンク色が見え始めた頃（写真６）

摘蕾程度：70～80％程度の蕾を取り除く（残す花芽数は 20～30％程度）（表）

※主枝・亜主枝先端部、伸ばしたい枝は全部摘蕾してください。

※若木の過度な摘蕾は、生理落果の原因となるので、やや多めに残してください。

※苗木～幼木期の結実させない樹は、全部摘蕾して樹体育成に努めてください。

※花粉の無い「川中島白桃」や花芽の少ない「黄金桃」等は、結実量を確保するため、除去する蕾の量を 30～50％程度にとどめてください。

写真６　摘蕾適期の花芽の状態

表　結果枝別の残す蕾の数と位置（70％程度摘蕾の場合）

短果枝（10cm未満）	中果枝（10～30cm）	長果枝（30cm以上）
先端付近に1～2個	中央部に2～3個	中央部に4～8個

お問い合わせ：富山県高岡農林振興センター担い手支援課園芸振興班
担当　宮部　℡２６－８４７６